



FAIRY TALE

生まれてから20年。長いようであつという間の時を経て、人は「大人」という存在になる。ようやく一人前の人間として扱ってもらえる。そんな喜びもあるだろう。でも……。責任なんて背負いたくない。このままあるがままに振る舞っていたい。それもまた自然な気持ちであろう。迎えたいようで迎えたくない。今回は「20歳」へのそんな思いを綴った倉木麻衣の『FAIRY TALE』を紹介したい。

『FAIRY TALE』は、倉木麻衣が20歳を目前にしてリリースしたアルバムである。17歳でデビューして以来、今にも消えてしまいそうなほど繊細で美しい歌声で、聴く者をどこか優しく温かい世界へと惹きこんできた。3rdシングル『Secret of my heart』をはじめとするヒット作を世に出し、順風満帆な歌手生活を送り始めた彼女。世間一般から見れば「成功者」といえるだろう。そんな彼女でも、いやそんな彼女だからこそであろうか――

夢を捨てるのが大人ならば なりたくはない
〔「Fairy tale~my last teenage wish~」〕

『FAIRY TALE』 倉木麻衣



定価：3,146円（税込）
品番：GZCA-5021
発売元：GIZA studio

1. Fairy tale~my last teenage wish~
2. Feel fine!
3. Ride on time
4. key to my heart
5. Winter Bells
6. Loving you...
7. Can't forget your love
8. Trip in the dream
9. Not that kind a girl
10. Like a star in the night
11. 不思議の国
12. fantasy



この気持ちはどこから来るのだろうか。思い出がしばしば非現実的と思えるほど美しく、そして鮮やかに蘇ってくる。まるで昔読んだ「おとぎ話」のように。だからこそ「大人」になることに抵抗感が生じてくる。そういうことなのかもしれない。でも避けることもできなければ戻ることもしない。そんな道なのだ。それなら「大人」としてどう歩んでいけばいいのか――

道案内は必要ないよ
時空の中に光る道をただ進めばいいから
〔「不思議の国」〕

走り抜けたあの頃の 心通し見ていた風景は
いつまでも ここにあるように
〔「fantasy」〕

生き方に地図なんてない。たとえ厳しい現実が目の前にあろうとも、未来に光があると信じて進んでみよう。だからといって子供時代と決別する必要はない。時には思い出に浸ったっていい。かっこ悪いかもしれないけど、背伸びしてかっこいい自分を演じる必要はない。あるがままを大切にする「大人」がいてもいい。こうして「20歳」への悩みを乗り越えて、本当の大人になっていく――。

はみだし
すてーじ

はみだしすてーじではみ出し顔文字使いたい。(ツイッターとかでよくみるやつ)
⇒ほいっと~♪L (^ω^)- ほいっと~♪L (^ω^)-

(工・4 くりす)
(よ~さ~;編)